

# 検査情報月報



2017  
12月

横浜市衛生研究所

# 平成29年12月号 目次

## 【トピックス】

アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2) .....	1
残留農薬検査(その3) .....	3

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 11月 .....	6
--------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	10
---------------------	----

## アレルギー物質を含む食品の検査結果(その2)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が「特定原材料」として指定されています。加工食品にこれらの特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーをもつ人がその食品を食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難などのアレルギー症状を引き起こし、死に至るケースも考えられます。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品の検査を行い、食品の安全を確認しています。

平成29年10月に、各区福祉保健センターが収去した市内の小学校給食(アレルギー物質除去)について、卵、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

### 1 卵の検査

原材料に卵を使用していないとされる食品12検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (かきたま汁(卵抜き))	12	0		
合計	12	0	0	0

### 2 小麦の検査

原材料に小麦を使用していないとされる食品21検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、すべて陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 小麦の検査結果

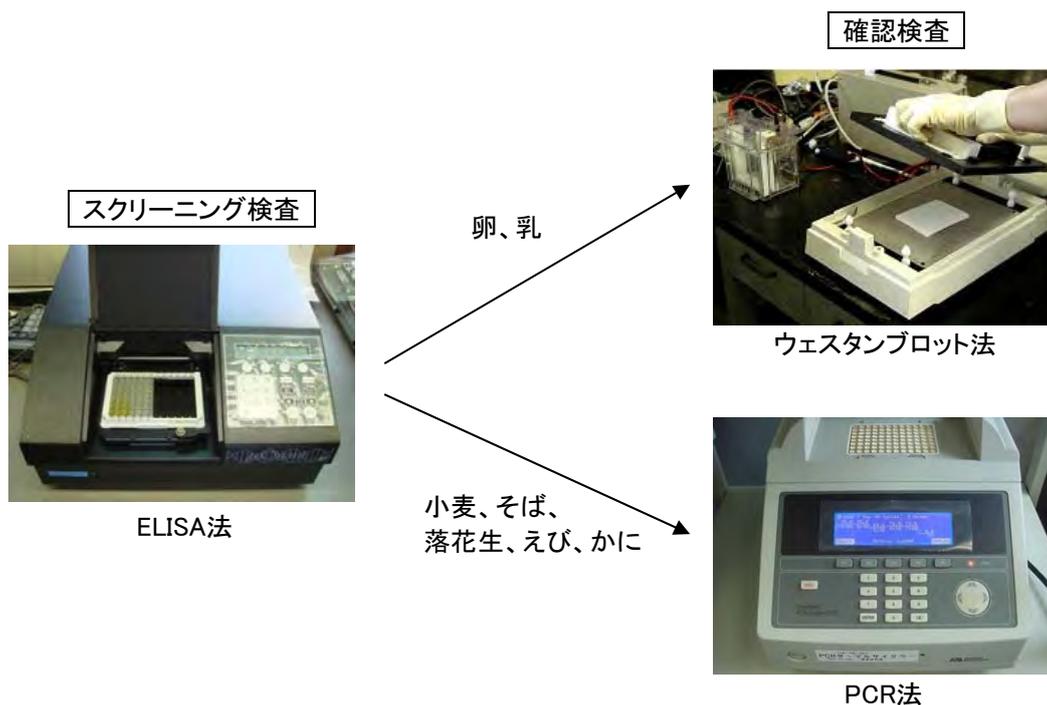
検体名	スクリーニング検査		確認検査	
	検体数	陽性数	検体数	陽性数
弁当・そうざい類 (チリコンカーン、ポークカレー)	21	0		
合計	21	0	0	0

(次ページに解説)

## ☆「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出し、その後、別の検査法で陽性の確認を行っています。

ELISA法によるスクリーニング検査は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となる場合があります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。確認検査にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を、また、小麦、そば、落花生、えび、かにについては、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

## 残留農薬検査(その3)

食品中に残留する農薬などが、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、平成29年10月～11月上旬に食品専門監視班、各区福祉保健センターが収去した農産物等の検査結果を報告します。

### 1 市内産農産物

10月に収去されたこまつな(2検体)、キャベツ、さつまいも、じゃがいも、とうがん、なす及びほうれんそう(各1検体)の8検体、11月に収去されたこまつな(4検体)、玄米(3検体)、さつまいも(2検体)、かぶの根、キャベツ、さといも、だいこんの根、だいこんの葉及びほうれんそう(各1検体)の15検体、合計23検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。こまつな3検体及びほうれんそう1検体の計4検体からクロチアニジン等5種類の農薬が0.02～0.26ppm検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

### 2 国内産農産物

10月に収去されたキャベツ、こまつな、さつまいも、じゃがいも、だいこんの根、日本なし及びはくさい(各1検体)の合計7検体について検査を行いました。

検査の結果を表1に示しました。キャベツ、こまつな、さつまいも、だいこんの根、日本なし及びはくさいの計6検体から、アセタミプリド等8種類の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で複数の農産物から検出された農薬の概要については、5ページの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H29年10月～11月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
<b>市内産農産物</b>						
かぶの根	横浜市	1	0			
キャベツ	横浜市	2	0			
玄米	横浜市	3	0			
こまつな	横浜市	6	3	クロルフェナピル	0.02	5
				チアメトキサム	0.05	5
				フルフェノクスロン	0.26	10
さつまいも	横浜市	3	0			
さといも	横浜市	1	0			
じゃがいも	横浜市	1	0			
だいこんの根	横浜市	1	0			
だいこんの葉	横浜市	1	0			
とうがん	横浜市	1	0			
なす	横浜市	1	0			
ほうれんそう	横浜市	2	1	* クロチアニジン	0.08	40
				シアゾファミド	0.05	25
<b>国内産農産物</b>						
キャベツ	群馬県	1	1	プロシミドン	0.01	2
こまつな	茨城県	1	1	フルフェノクスロン	0.01	10
さつまいも	茨城県	1	1	クロルピリホス	0.08	0.1
じゃがいも	北海道	1	0			
だいこんの根	群馬県	1	1	ホスチアゼート	0.02	0.2

表1 残留農薬検査結果(続き)

(H29年10月～11月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)	
国内産農産物(続き)							
日本なし	茨城県	1	1	{ アセタミプリド ボスカリド	0.01	2	
						0.01	3
はくさい	長野県	1	1	{ アセタミプリド クロチアニジン ジメトモルフ ボスカリド	0.03	0.5	
						0.02	2
						0.09	2
						0.14	40

\* 中括弧({)は同一検体からの検出

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				
		A*1	B*1	C*1	D*1	E*1			A	B	C	D	E
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	○	-*2	-	-	シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	○	ジウロン	0.01	○	○	○	○	-
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	○	ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	○	○	ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	ジクロラン	0.01	○	-	-	-	-
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	ジコホール	0.01	○	○	○	○	○
アニロホス	0.01	○	○	○	○	-	シハロトリン	0.01	○	○	○	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	-	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	○	○	シフルトリン	0.01	○	-	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	○	-	○
インダノファン	0.01	○	○	○	○	-	シベルメトリン	0.01	-	-	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	ジメチリモール	0.01	○	-	-	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	-
エトプロホス	0.005	○	○	○	○	○	スルプロホス	0.01	-	○	○	○	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	○	○	ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	-	○	-	ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	○	-	○	-	-	チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	-	○	-	○	チアメトキサム	0.01	○	○	-	○	○
オキサジクロメホン	0.01	○	-	-	-	-	テトラクロルビンホス	0.01	○	○	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	テトラジホン	0.01	○	○	○	○	-
オキシカルボキシシン	0.01	○	○	○	○	○	テブチウロン	0.01	○	○	○	○	-
オリザリン	0.01	-	-	○	○	○	テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
カズサホス	0.01	○	○	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○
カフェンストロール	0.01	-	○	○	○	○	トラルコキシジム	0.01	○	○	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	-	○	○	○	-
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	-	トリフルムロン	0.01	○	○	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
クロキントセット-メキシル	0.01	○	○	○	○	○	ノバルロン	0.01	○	-	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	-	パラチオン	0.01	○	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	-	○	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○
クロリダゾン	0.01	○	○	○	○	○	ハルフェンブロックス	0.01	○	-	-	-	-
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	-	○	-	-	-
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	ピラゾリネート	0.01	○	-	-	○	○
クロルフェンソン	0.01	○	○	○	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○	○	○	○
クロルフェンビンホス	0.01	○	○	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	-	ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界(ppm)	農産物					農薬名	検出限界(ppm)	農産物				
		A	B	C	D	E			A	B	C	D	E
フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	-	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○	ブロモプロピレート	0.01	○	-	-	-	-
フェリムゾン	0.01	-	○	-	-	-	ヘキサフルムロン	0.01	-	○	-	-	-
フェンアミドン	0.01	○	○	○	○	-	ヘキシチアゾクス	0.01	○	-	-	-	-
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	-	○	-	-	-
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○	○
フェントラザミド	0.01	○	○	○	○	-	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○
フェンバレレート	0.01	○	-	○	○	-	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	-	○	○	○	ペントキサザン	0.01	○	○	-	-	-
フェンプロバトリン	0.01	○	-	○	○	○	ボスカリド	0.01	-	○	○	-	○
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	-
ブタミホス	0.01	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	○
フラメトピル	0.01	○	○	○	○	-	メトキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○
フルシトリネート	0.01	○	-	○	○	-	メビンホス	0.01	○	○	○	○	○
フルバリネート	0.01	○	-	○	○	○	モノリニュロン	0.01	○	○	○	○	-
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	○	-	○
フルリドン	0.01	○	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○	○
プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○	リンデン( $\gamma$ -BHC)	0.002	○	○	○	○	-
プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	-	-	○	○	○

\*1 A:玄米 B:こまつな、だいこんの葉、ほうれんそう

C:かぶの根、キャベツ、だいこんの根、とうがん、なす、はくさい D:さつまいも、さといも、じゃがいも

E:日本なし

\*2 ○:実施、-:実施せず

\*3 DDTは*p,p'*-DDE、*p,p'*-DDD、*o,p'*-DDT及び*p,p'*-DDTの和

### 【農薬解説】

#### ○アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。今年度実施した検査において、トマト(市内産)からも検出されました。

#### ○クロチアニジン

『ダントツ』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して低薬量で効果があります。特に吸汁性害虫に対して高い殺虫作用があり、効果は長期間持続します。今年度実施した検査において、きゅうり及びなす(市内産)からも検出されました。

#### ○フルフェノクスロン

『カスケード』などの商品名で販売されている殺虫剤で、幼虫の脱皮を阻害します。チョウ目害虫、ハダニ類、ヨコバイ、アザミウマ類の幼虫に対して高い防除効果を示し、効果は長期間持続します。今年度実施した検査において、レタス(市内産)からも検出されました。

#### ○ボスカリド

『カンタス』などの商品名で販売されている殺菌剤で、菌核病菌や灰色カビ病菌などの感染を防ぐ効果があります。今年度実施した検査において、トマト(市内産)からも検出されました。

### ※参考文献

- ・一般社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2016年版

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告 11月

## 《今月のトピックス》

- インフルエンザの流行が始まりました。
- 感染性胃腸炎、伝染性紅斑の報告数がやや増加しています。
- 手足口病の流行警報が解除されました。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈11月期に報告された全数把握疾患〉

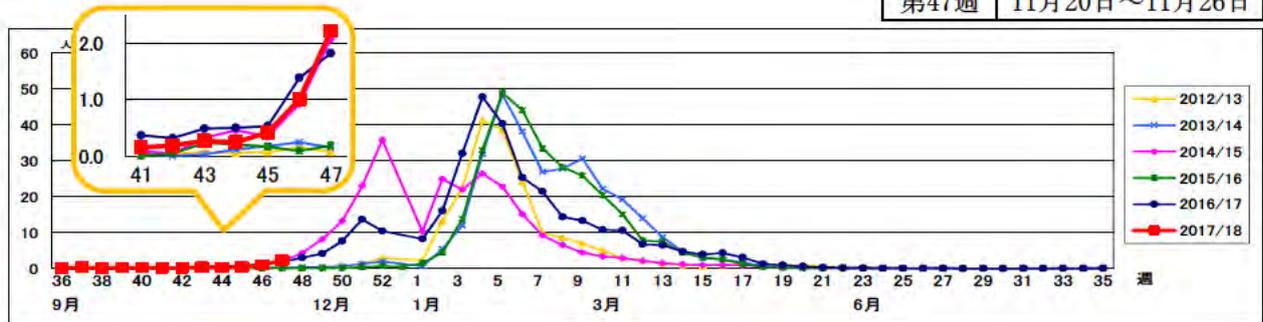
細菌性赤痢	1件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	8件
腸管出血性大腸菌感染症	6件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
A型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	5件
デング熱	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	12件
アメーバ赤痢	3件	梅毒	18件
ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	1件	風しん	1件

- 1 細菌性赤痢:sonnei(D群)の報告が1件ありました。フィリピンでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症:O157の報告が5件、O26の報告が1件ありました。うち、無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
- 3 A型肝炎:2件あり、1件はインドまたはネパールでの経口感染と推定され、1件は国内と推定されていますが、感染経路等不明です。
- 4 デング熱:カンボジアでの感染と推定される報告が1件ありました。
- 5 レジオネラ症:肺炎型の報告が3件ありました。感染経路等不明です。
- 6 アメーバ赤痢:3件の報告があり、2件は国内感染が推定される腸管アメーバ症、1件は国内またはハワイでの感染と推定される腸管外アメーバ症でした。経口感染、性的接触(異性間)、感染経路等不明が1件ずつでした。
- 7 ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く):40歳代のB型の報告が1件ありました。ワクチン接種歴はなく、感染経路等不明です。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:8件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 9 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:3件のG群の報告があり、感染経路等不明でした。
- 10 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):AIDSの報告が3件、無症状病原体保有者の報告が2件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が3件、異性間の性的接触が1件、異性間または同性間の性的接触が1件でした。4件は国内の感染、1件はフィリピンでの感染と推定されています。
- 11 侵襲性インフルエンザ菌感染症:60歳代の報告が1件ありました。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症:70歳代以上の報告が7件(うち2件はワクチン接種歴あり、5件は不明)、30歳代、50歳代、60歳代の報告が1件ずつ(ワクチン接種歴不明)、乳幼児の報告が2件(1件はワクチン接種歴あり、1件は不明)でした。
- 13 梅毒:18件の報告(無症状病原体保有者8件、早期顕症梅毒Ⅰ期6件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件)がありました。いずれも国内での感染で、男性10件、女性8件でした。感染経路は、異性間性的接触が13件、同性間性的接触が1件、性別不詳の性的接触が2件、感染経路等不明が2件です。
- 14 風しん:30歳代の検査診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。

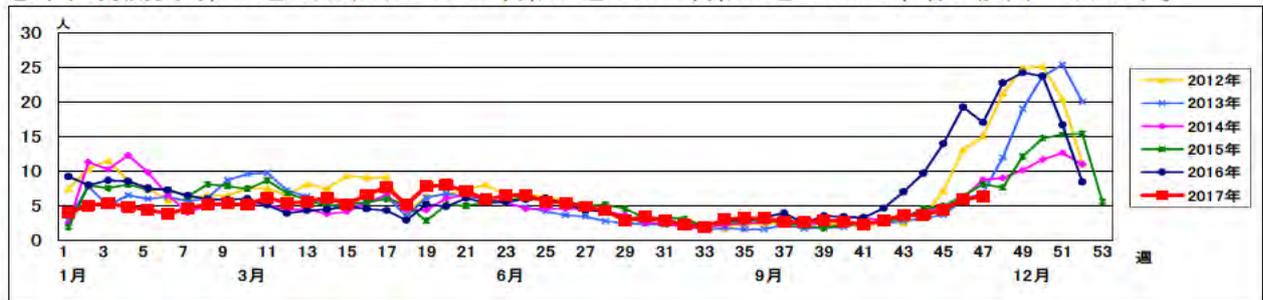
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第43週	10月23日～10月29日
第44週	10月30日～11月5日
第45週	11月6日～11月12日
第46週	11月13日～11月19日
第47週	11月20日～11月26日

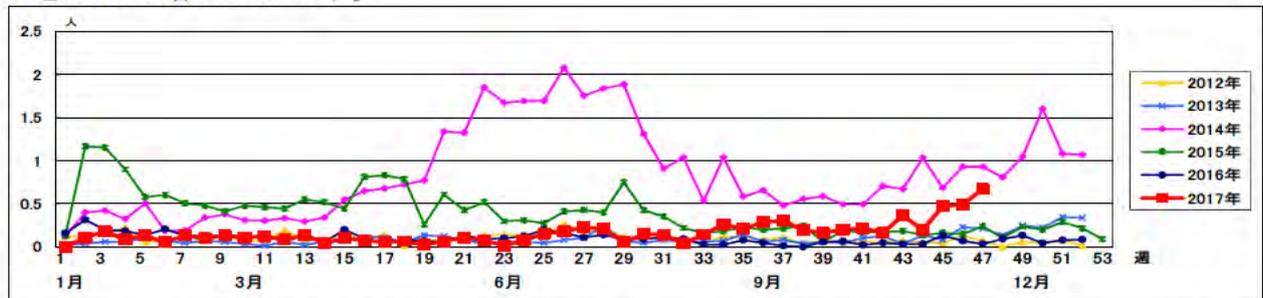
- 1 インフルエンザ: 第44週で定点あたり0.25、第45週で0.42と増加し、第46週にて1.01となり、流行開始の目安(1.00)を上回りました。第47週では2.22となっています。



- 2 感染性胃腸炎: 第45週で定点あたり4.39、第46週で5.85、第47週で6.33と、増加傾向にあります。



- 3 伝染性紅斑: 定点あたり0.1～0.2にて推移してきましたが、第45週で定点あたり0.47、第46週で0.49、第47週で0.67と増加しています。



- 4 手足口病: 第28週にて定点あたり6.20となり流行警報(基準値:5.00)が発令され、第31週の11.20をピークとして減少し、第45週に1.52にて流行警報は解除(基準値:2.00)されました。

5 性感染症(10月)

性器クラミジア感染症	男性:22件	女性:21件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:2件	女性:4件	淋菌感染症	男性:11件	女性:1件

6 基幹定点週報

	第43週	第44週	第45週	第46週	第47週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.33	0.33	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.67	0.67	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

7 基幹定点月報(10月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点47件、内科定点11件、基幹定点26件で、定点外医療機関からは1件でした。

12月11日現在、表に示した各種ウイルスの分離株20例と遺伝子25例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ <sup>*1</sup>	R S 感 染 症	ア デ ノ 感 染 症 <sup>*2</sup>	手 足 口 病	発 疹 症	無 菌 性 髄 膜 炎	新 生 児 発 熱	水 痘	汎 血 球 減 少	流 行 性 筋 痛 症
インフルエンザ AH1N1pdm09型			5									
インフルエンザ AH3型			2 1									
インフルエンザ B型山形系統			6									
アデノ 3型					2							
アデノ 型未同定					6							
パラインフルエンザ 1型		1	1									
パラインフルエンザ 2型		1 1										
RS				3	1							
ライノ							1					
ヒトコロナ OC43型			1									
コクサッキー A6型	1					3						
コクサッキー A10型	2											
コクサッキー A16型						1						
コクサッキー B1型											1	
コクサッキー B2型								1	1			
エンテロ 71型						1						
HSV 1型												1
VZV										1		
合計	3	1 2	13 3	3	2 7	1 4	1	1	1	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:咽頭結膜熱を含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

11月の「細菌感染性胃腸炎」は、赤痢菌 (*Shigella sonnei*) が1件、腸管出血性大腸菌 (O157:H-,VT1&2が1件、O157:H7,VT2が2件、O157:H-,VT2が1件、O26:H11,VT1が1件) が5件、サルモネラ属菌 (O4群) が1件でした。

「その他の感染症」のインフルエンザ菌は侵襲性インフルエンザ感染症由来で、無莢膜型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(11月)

### 細菌感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	11月			2017年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	2	5	6	51	99
菌種名						
赤痢菌			1		3	3
腸管出血性大腸菌		1	4		8	87
腸管毒素原性大腸菌					5	3
腸管凝集性大腸菌					4	
チフス菌					1	
サルモネラ属菌		1			21	5
不検出	0	0	0	6	9	1

### その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	11月			2017年1月～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	4	8	2	34	93	195
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1	2		11		1
	T4	2		7		
	T6			4		
	T12			2		1
	T B3264			3	1	1
	型別不能			2		
B群溶血性レンサ球菌					2	7
G群溶血性レンサ球菌		2			5	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						3
バンコマイシン耐性腸球菌						9
レジオネラ属菌					2	7
インフルエンザ菌				1	1	5
肺炎球菌		1	1		6	15
結核菌					20	111
百日咳菌					4	
緑膿菌					1	
その他		1			45	25
不検出	0	4	1	4	6	6

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成29年11月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

平成29年11月の総アクセス数は、109,148件でした。前月に比べ約5%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*171.8%、保健情報10.1%、検査情報月報4.0%、食品衛生3.1%、生活環境衛生2.2%、薬事0.6%でした。

\*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

11月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は「大麻(マリファナ)について」、2位は「横浜市感染症情報センタートップページ」、3位は「衛生研究所トップページ」でした。1位の「大麻(マリファナ)について」のアクセス件数は、継続的に上位を占めています。また、インフルエンザ流行情報に関するタイトルが上位に入り、関心の高さがうかがえます。

表1 平成29年11月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	7,171
2	横浜市感染症情報センタートップページ	5,653
3	衛生研究所トップページ	3,936
4	横浜市インフルエンザ流行情報1号(2017/2018)	3,854
5	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,570
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	2,463
7	インフルエンザワクチンについて	2,209
8	横浜市インフルエンザ流行情報18号(2016/2017)	2,200
9	インフルエンザ流行情報(2016/2017)	2,158
10	感染症発生状況	1,771

データ提供: 市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

「衛生研究所トップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>

### (3) 電子メールによる問い合わせ

平成29年11月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成29年11月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
室内の空気をよごす主な化学物質について	1	理化学検査研究課
『感染症に気をつけよう』掲載許可について	1	感染症・疫学情報課

## 2 追加・更新記事

平成29年11月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表3)。

表3 平成29年11月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
11月 2日	感染症に気をつけよう(11月号)	掲載
11月 7日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成29年)	更新
11月 9日	インフルエンザワクチンについて	更新
11月13日	平成27年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)の健診データ分析結果	掲載
11月13日	平成27年度協会けんぽ神奈川支部加入者(横浜市在住)生活習慣病予防健診データ業態別分析結果	掲載
11月17日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成29年)	掲載
11月21日	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)の検査結果(2016-2017年)	更新
11月22日	横浜市インフルエンザ流行情報1号	掲載
11月22日	インフルエンザについて	更新
11月27日	学校感染症について	更新
11月30日	横浜市インフルエンザ流行情報2号	掲載
11月30日	インフルエンザについて	更新

【 感染症・疫学情報課 】